

## 1-b 不妊治療の胎児に与える影響に関する研究

九州大学医学部産婦人科学教室

楠田 雅彦・津田 知輝

大久保 信之・堂地 勉

不妊婦人が日常一般に行われている不妊診療をうけた周期に妊娠成立した場合、不妊診療がその妊娠の転帰および出生した児に何らかの影響を及ぼすか否かを観察することを目的として昭和53年4月より昭和56年4月までの3年1ヶ月の間に九大病院不妊外来通院中に妊娠成立した326例、この内その転帰が不明であった26例を除いた300例について妊娠の転帰と妊娠成立周期にうけた不妊診療との関係、新生児の異常について検討してみた。

300例の妊娠の転帰は生産251例(83.7%)、流産49例(16.3%)であり流産例中には肺炎による、あるいはトキソプラズマ感染疑いによる人工中絶各1例が含まれているが若干高い様に思われた。生産は早期産14例(4.7%)、正期産234例(78%)、過期産3例(1.0%)であった。正期産234例(双胎3例、品胎1例を含む)より出生した児239例を昭和54年1月から6月までの間に九大病院で出産した正期産児300例を対象として性比、平均体重、平均身長、発育度を比較してみたが不妊診療によって出生した児に女兒が若干多い他は特に両者間に著明な差は認められなかった。不妊診療を治療検査など20項目に分けて検討してみたが、一般的に使用される排卵誘発剤であるclomipheneでの妊娠例がほぼ半数を占め流産率は14.6%であった。性比は男児37例(41.6%)、女児52例(58.4%)でこの性比の差が全体的な性比の差になって表われた様である。clomipheneとE<sub>2</sub>-benzoateとDXM併用例に早期産で出生したEbstein anomalyが1例認められ小児科入院中である。cyclophenil, hMG-hCG療法による妊娠例では、流産率が高かった。E<sub>2</sub>-benzoate, PXM使用時の妊娠例も流産率が高いが、これらの薬剤は単独で使用されることはなくほとんどがclomipheneなどの薬剤と併用されるものであり、これらの薬剤を必要とする程排卵障害が進んでいることがこの流産率に表われていると考えられるし、プロゲステロン補充療法時妊娠の流産率27.1%やhCG黄体刺激療法時妊娠の流産率29.4%はその背景にある黄体機能不全が流産率を上げる原因である様である。フナーテスト、子宮内膜日付け診、HSG通水な

どは治療というより検査としての性格が強いがこれらによる妊娠の流産率も各々20%, 21.4%, 18.8%, 17.4%と20%前後で高いが、これらはプロゲステロン補充療法やhCG刺激療法あるいはその他の治療による妊娠と重複していることが多く重複例を除くと6~7%の流産率となる。

HSG時の妊娠例に早期産で出生した鎖肛, 12指腸閉鎖, 陰のう水腫を伴ったダウン症児が認められた。DANAZOL, 卵巣楔状切除術, 保存的手術などは妊娠成立に直接関与する項目ではなくその流産率もこれらの治療の影響を純粹に反映するものではないが各々20%, 16.7%, 5.3%であった。無治療妊娠の中には妊娠成立周期のみ無治療であった例から数ヶ月無治療の例まで含んでいるが双胎1例を含む62例の妊娠を得、流産率は7.3%であった。児の異常として内反足1例, 分娩後8ヶ月目に診断された横隔膜ヘルニアの1例計2例が認められたが、この2例とも妊娠成立周期前3ヶ月無治療であったことから不妊診療との因果関係は薄いと考えられた。生後の児の発育生長に関しては無治療妊娠群に生後の外傷例が一例あったのみで他は全員順調, 普通と答えている。

以上不妊治療より妊娠分娩した300例の症例について検討したがclomiphene症例, HSG症例に各1例の奇型が認められたが診療との因果関係は明らかではない。1つの検査及び治療が1つの妊娠と結びつくことはむしろ少なく、いくつかの検査治療が重複していることが多いのに加えて観察期間も充分とは云えないので結論は出せないが、今回の調査では明らかに不妊診療が妊娠およびその児に悪影響を及ぼしているとは考えられなかった。

表 1

不妊治療・検査による妊娠の転帰 (S・53・4～S・56・4)

転 帰	例 数	%	
早 期 産	14	4.7	総 数 326 例 転帰不明 26 例
正 期 産	234	78.0	
過 期 産	3	1.0	
流 産	49	16.3	
	300	100	

対照との比較 (新生児)

	例数	性比 (%)	体 重	身 長	備 考 (%)
正 期 産	239	男 114(47.7)	3144±392	49.4±1.7	SFD 11 ( 8.8 )
		女 125(52.3)			AFD 205 ( 85.8 )
					LFD 13 ( 6.2 )
対 照 例 (S, 54, 1～6) の 正 期 産	300	男 154(51.3)	3179±380	49.1±2.0	SFD 19 ( 6.4 )
		女 146(48.7)			AFD 253 ( 84.3 )
					LFD 23 ( 9.3 )

表 2

治療・検査	妊娠例	転 帰	児 数	性 比	備 考	
clomiphene	108	生産	87 (双胎 2)	男 37	SFD 9	
		流産	15	89	女 52	AFD 76 ※
		不明	5		LFD 4	
cyclophenil	9	生産	5	男 1	AFD 5	
		流産	3	5	女 4	
		不明	1			
hMG-hCG	10	生産	8	男 5	SFD 1	
		流産	2	10	女 5	AFD 9
		不明	0			
hCG	13	生産	9	男 5	SFD 1	
		流産	1	9	女 4	AFD 8
		不明	3			

※ 心臓奇型1例

治療・検査	妊娠例	転 帰	児 数	性 比	備 考		
bromocriptine	7	生産	6	男 4 女 5	SFD	3	
		流産	0		9	AFD	6
		不明	1				
estrogen	19	生産	16	男 7 女 9	SFD	2	
		流産	3		16	AFD	14
		不明	0				
E <sub>2</sub> -benzoate	10	生産	7	男 3 女 4	SFD	2	
		流産	2		7	AFD	4
		不明	1			LFD	1
dexamethasone	22	生産	16	男 5 女 11	SFD	1	
		流産	5		16	AFD	14
		不明	1			LFD	1

表 3

治療・検査	妊娠例	転 帰	児 数	性 比	備 考		
DHRP-replace	50	生産	35	男 24 女 15	SFD	3	
		流産	13		39	AFD	36
		不明	2				
hCG-stimule	19	出産	12	男 3 女 9	AFD	12	
		流産	5		12		
		不明	2				
A. I. H.	13	生産	11	男 6 女 5	SFD	1	
		流産	0		11	AFD	10
		不明	2				
A. I. D.	9	生産	6	男 3 女 3	AFD	6	
		流産	1		6		
		不明	2				

治療・検査	妊娠例	転 帰	児 数	性 比	備 考		
Huhner test	56	生産	44	男 24 女 20	SFD	4	
		流産	11		44	AFD	36
		不明	1		LFD	4	
endomet. Bx.	15	生産	11	男 7 女 4	SFD	1	
		流産	3		11	AFD	9
		不明	1		LFD	1	
H. S. G.	18	生産	13	男 6 女 7	SFD	1	
		流産	3		13	AFD	12 ※
		不明	2				
hydrotubation	26	生産	19	男 11 女 8	AFD	18	
		流産	4		19	LFD	1
		不明	3				

※ 鎖肛の1例

治療・検査	妊娠例	転 帰	児 数	性 比	備 考		
danazol	12	生産	8	男 5 女 3	AFD	8	
		流産	2		8		
		不明	2				
wedge resect.	9	生産	5	男 1 女 4	SFD	1	
		流産	1		5	AFD	3
		不明	3		LFD	1	
conserv. op.	21	生産	18	男 11 女 7	SFD	2	
		流産	1		18	AFD	15
		不明	2		LFD	1	
no therapy	62	生産	51 (双胎1)	男 27 女 25	SFD	4	
		流産	4		52	AFD	43 ※
		不明	7		LFD	5	

※ 横隔膜ヘルニア、内反足の各1例を含む



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



不妊婦人が日常一般に行われている不妊診療をうけた周期に妊娠成立した場合、不妊診療がその妊娠の転帰および出生した児に何らかの影響を及ぼすか否かを観察することを目的として昭和53年4月より昭和56年4月までの3年1ヶ月の間に九大病院不妊外来通院中に妊娠成立した326例、この内その転帰が不明であった26例を除いた300例について妊娠の転帰と妊娠成立周期にうけた不妊診療との関係、新庄児の異常について検討してみた。